

公益社団法人 私立大学情報教育協会
2019年度第2回
栄養学・薬学・医学・歯学・看護学・リハビリテーション学グループ
分野連携合同会議議事概要

- I. 日時 : 令和元年 10月 22日 (火) 13:00~15:00
II. 場所 : 私学会館(アルカディア市ヶ谷) 6階 阿蘇
東京都千代田区九段北4丁目2-25 (TEL:03-3261-9921)

III. 出席者

酒井委員長・石崎委員・鈴木委員・由良委員(栄養学分野)、黒澤委員長・西村委員・大嶋委員(薬学分野)、山本委員(医学分野)、神原委員長・片岡委員・奥村委員・花田委員・辻林委員・森實アドバイザー(歯学分野)、中山委員・梶井委員・丸山委員(看護学、リハビリ学分野)
事務局:井端事務局長、野本副主幹、中村職員

IV. 議事の経過

黒澤委員長の議事進行により、分野連携アクティブ・ラーニング対話集会の具体的な開催内容について検討を行った。話題提供案の内容について確認を行うとともに、意見交流のテーマと内容の検討を行い、開催日時 場所、事前アンケート内容の確認と具体的な進め方について検討を行い、以下のとおり決定した。

1. 話題提供内容と提供者

① 栄養学分野

話題提供者: 順天堂大学 准教授 鈴木良雄 氏
タイトル: 反転授業と双方向ツールを活用した授業改善
内容: 事前に ICT による授業コンテンツを配布して予習させ、教室では理解の確認をする形式の反転授業を行うことで、全体の習熟度が向上し、授業についてこられない学生を減らす効果が見られ、授業中に双方向コミュニケーションツール「Slido」を導入することで、多人数授業でもリアルタイムで理解度の確認や質問・感想を集め、学生本位の対応ができるようになったことを紹介する。

② 医学分野

話題提供者: 日本医科大学 医学教育センター教授 藤倉輝道氏
タイトル: シミュレータと ICT、学習支援システムを連携させた遠隔 PBL による授業改善の提案
内容: 臨床実習前教育をより現場教育に近いものにするため、LMS を活用して代表学生が高機能シミュレータを用いた演習の様子を ICT で 17 の演習室にいる各チーム全員に同時中継し、100 名以上の学生に双方向型の遠隔 PBL を行うことで、現場感覚に近い情報を提供して臨床推論の考察を目指していることを紹介する。

③ 栄養学・薬学・医学・歯学・看護学・リハビリテーション学分野

話題提供者: 昭和大学 歯学部歯学医学教育推進室主任教授 片岡竜太 氏
タイトル: 問題発見・解決力養成を目指した ICT を活用した授業の成果
～ 保健医療福祉介護栄養 6 分野 2 年生のネットグループ学修 ～
内容: 主体的な学びの能力を身につける第 1 段階として、ICT 学修支援システムを活用して 6 大学で分野の異なる 2 年生 12 名(2 グループ)が、4 週に亘り短期集中型の自己主導型学修とグループ討論によるネット授業を行うことで、多面的な視点で問題を発見し、各分野における職種の未来像と連携の重要性を気づかせることができたことを紹介する。

④ 栄養学・薬学・医学・看護学分野

話題提供者: 名城大学 薬学部准教授 半谷真七子 氏
タイトル: 糖尿病患者をテーマにした WEB キャンパスの参加型チーム医療の実践と成果
内容: 糖尿病患者をテーマに、名城大学の薬学生 6 名、名古屋大学の医学生 3 名と看護学生 6 名、名古屋学芸大学の栄養学生 3 名が 3 つの混成チームに分かれ、SNS・TV 会議を利用

して事前打合せを行い情報共有することで、時間的・空間的・心理的な負担が軽減され、多職種協働に必要な協働力・役割と責任・態度に向上が見られたことを紹介する。

2. 意見交流の内容と事前アンケートについて

今年度は、問題発見・解決型教育(PBL)の推進に向けて、検討しておくべき教育体制及び教育方法等について論点を整理するとともに、学修環境としての学びのプラットフォームとファシリテータによる支援体制、ビデオ試問による思考力等の到達度点検・評価・助言の仕組みについて、意見交換を通じて実現可能性を探求するため、以下の4テーマで意見交流を行うとともに、参加者には意見交流のテーマに関連した内容のアンケート提出の協力を要請することを確認した。

- ① 地域社会及びSDGs（持続可能な開発目標）の課題解決を訓練するPBLの必要性と教育方法
- ② 知の創造を目指すICT活用の分野横断フォーラム型授業の進め方と課題
- ③ 学びのプラットフォームづくりとファシリテータによる支援体制
- ④ 外部者のビデオ試問による思考力等の点検・評価・助言モデルの仕組みと導入に向けた準備・課題

3. 開催日時と場所

開催日時：令和2年1月26日（日）13：00～17：00

開催場所：帝京平成大学（中野キャンパス）

4. 事前アンケートの内容検討

意見交流の運営に役立てるため、参加申込者に任意でアンケートを行うことについて協議し、以下の内容とすることを確認した。

- ① 問題発見・問題解決を目指すアクティブ・ラーニングのPBL（プロブレム・ベースド・ラーニング、プロジェクト・ベースド・ラーニング）の導入状況
- ② PBL導入による主な教育効果について
- ③ 問題発見・解決型PBLのニーズについて
- ④ PBLの運営で特に必要と思われる教員の役割について
- ⑤ PBLを実施していく上での課題について
- ⑥ ICTを活用した「学びのプラットフォーム」（学修支援システム）に求められる機能について
- ⑦ ファシリテータの支援に求められる重要と思われる役割について

V. 運営シナリオの検討と役割分担

各分野から選出された進行役委員は、アンケートを踏まえた運営を検討すること、次回は対話集会とし当日、進行役委員と話題提供者による事前打合せ会を実施することを確認した。